

# Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2023/11/30

## Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.83	0.08
JPY/THB	0.2366	0.0010
USD/JPY	147.24	-0.24
EUR/THB	38.21	0.01
EUR/USD	1.0969	-0.0024
USD/CNH	7.143	0.011
SGD/THB	26.12	0.02
AUD/THB	23.05	-0.05
USD/INR	83.33	-0.02
USD Index	102.77	0.02

## Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.602	-0.036
10Y (THB)	2.966	-0.069
5Y (USD)	4.209	-0.068
10Y (USD)	4.255	-0.066

## Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,047.1	7.1
WTI (Oil)	77.86	1.45
Copper	8,415.5	-57.5

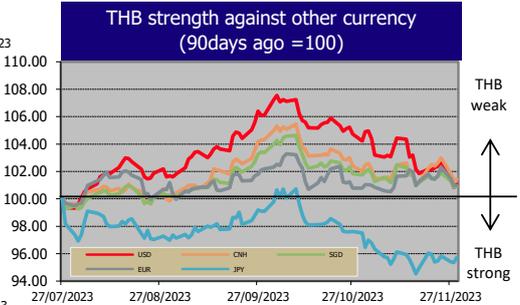
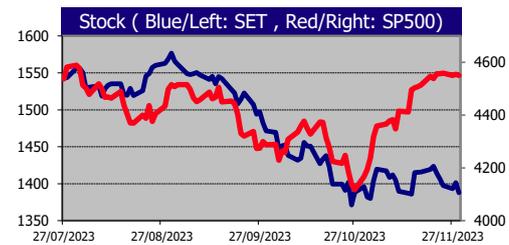
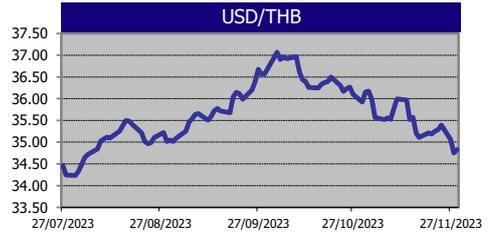
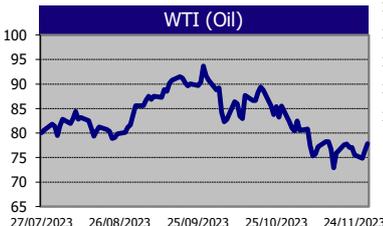
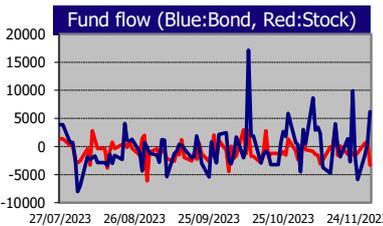
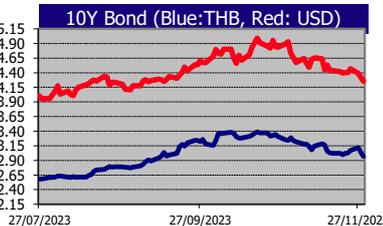
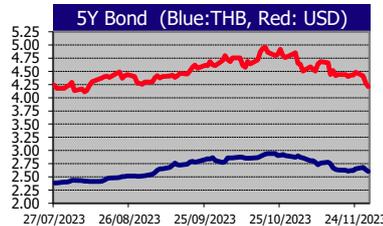
## Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,387.69	-13.73
NIKKEI (JP)	33,321.22	-87.17
DOW (US)	35,430.42	13.44
S&P500 (US)	4,550.58	-4.31
SHCOMP (CN)	3,021.69	-16.87
DAX(GER)	16,166.45	173.78

## Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(3,328)	-4100.7
Bond net flow	6,169	5558.3

\*compared with previous day  
(Source: Bloomberg)



## Yesterday's market summary

### ●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは僅かに上昇。34パーツ台半ば付近で取引を開始すると、バンコク時間午後後に年内最後のタイ中銀(BOT)による金融政策委員会(MPC)を控え、34パーツ台半ばから後半にかけてのレンジにて方向感に欠ける推移に。注目のMPCでは市場予想通り政策金利の据え置きが決定され、経済成長・物価の見通しについては下方修正されたが、同決定を受けたパーツの反応は限定的なものとなった。ただ、その後海外時間入りにかけて全般的にややドルの買い戻しが優勢となる展開にドルパーツも34パーツ台後半まで上昇。以降は強弱まちまちの結果となった米国第3Q GDP(2次速報)や、Fed高官によるハト派的な発言、米経済の減速に言及した米地区連銀経済報告(ページブック)等を受けて上下するも、いずれも値動きは34パーツ台後半のレンジに留まり、結局34.83レベルでクローズを迎えた。

### ●ドル円その他

・昨日のドル円はほぼ変わらず。147円台前半の水準で取引を開始。前日海外時間の流れを引き継ぐ格好で上値重く推移し、一時146円台半ば付近まで下落。一服後は買い戻しが強まる展開に海外時間入りにかけて147円台後半まで上昇した。NY朝方に発表された米国第3Q GDP(2次速報)が市場予想を上回る結果となり一時ドル買い強まるも、個人消費等の構成項目が下方修正されていることが確認され、勢いは限定的なものに留まった。以降は複数のFed高官からのハト派的な発言や「経済活動全体は前回報告期間と比べて減速」としたページブックを嫌気する格好でドル円は上値重く推移。147円台前半まで戻し、そのまま147.24レベルで引けた。

## Bangkok Dealer's Eye

昨日タイ中銀は金融政策決定会合で政策金利の据え置きを決定した。欧米や他のアジア各国に続き、いよいよタイも今次利上げサイクルの最終局面を迎えたと見られ、ここからはインフレ鈍化や経済成長のペースに合わせ、いつどの国が利下げに転じるかを見極めていくフェーズに入りそうだ。為替市場の中長期的な行方は主に国家間の経常収支等の基礎的需給バランスと金利差で説明されることが多いが、投機的なフローが多い昨今の相場では金利差がより説得力を持つケースが多いと考える。その金利差を見通す上で重要となる米金利の動向については、今週に入り、タカ派と言われていたFRBのウォラー理事が利下げ開始のトピックに言及した一方、リッチモンド連銀のバーキン総裁はまだ追加利上げの選択肢を残すべきだと主張するなど、なかなか市場に確信を持たせない状況が続く。そのような中、本日は米国で10月個人消費支出デフレーター(PCE)が発表される。FRBが金融政策決定において消費者物価指数(CPI)以上に重視しているインフレ指標であり、いまのところ思惑を背景に進む米金利低下の流れに追撃を与えることになるかに注目したい。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.